

連載

ドキュメンタリーの視覚5

鈴木一誌

気鋭の映画評論家としても知られるデザイナーが
古典的作品から記録映画をどう観るかを探る連載。

特集

小農民のフェアトレードを目指して
コーヒー産業の現在
激しい価格変動の中で儲けているのは誰か？

5

資源価格の上昇にもなつてコーヒーの先物価格が上昇している。
しかし、小農民の取り分が極小である「植民地作物の構造」は不変だ。
より精密な現状分析による、新しいフェアトレードの提案へ！



特集1

コーヒーのグローバルフードシステムと価格変動 辻村英之
生産国タンザニアと消費国日本を事例として

6

商品連鎖と価値連鎖からなるグローバルフードシステムの
過程の中で、コーヒー価格はどのように形成されてゆくのか。
コーヒー危機以後の生産国に与えた影響を分析する。

特集2

国際コーヒー機関の歴史と役割 山田早苗
世界市場の統制から量と質の安定へ向けて

17

単にコーヒー市場を統制するにとどまらず、国際政治経済の
舞台において大きな発言力を持ったICO。その半世紀に及ぶ
歴史の中で浮沈と、これからも問われてゆく存在意義とは。

特集3

国際コーヒー価格の変動要因 田中昭彦
ニューヨーク先物価格と石油価格高騰

27

様々な要因の影響を受けて変動しながら、世界のコーヒー
産業の動向を左右するニューヨーク先物市場価格。
生産国・消費国の状況分析を通じて今後の行方を検討する。

特集4

コーヒーの国際価格上昇の影響 圓尾修三／辻村英之
日本のコーヒー産業の現在

38

世界のコーヒー価格は主に生産国の供給量に規定されるが、
消費国の需要も見逃せない要因となりつつある。大手業者の
動向と、製品差別化等により慣行を打ち破ってゆく可能性は。

特集5

東ティモールのコーヒー産地に見る
フェアトレードと小農経営 井上礼子
第三回フェアトレード研究会より

47

世界で最も若い国の山間部に生まれた生産者協同組合と共に、
大資本などによる激しい買い付け競争の波をくぐり抜けて
フェアトレードに取り組むNGOの実証的現場報告。

コラム

「協同」の現場から
JATAツアーズ

24



特別記事

自治体の開発協力とフェアトレード 長坂寿久
「自治体の地球的責任」(MGR)と
フェアトレードタウンについて

55

世界的に広まっているフェアトレード運動に自治体を参画
させて、地域に根付かせていく——欧米のフェアトレードタウン
を例に、日本におけるその可能性と意義を問う。

温暖化の脅威を語る気象学者の「じつげ論理」 植田 敦 65

地球の温暖化は事実であるとしても、ただ(〇)にのみその原因を帰する通説はどこまで信憑性をもっているのか？ 物理学の見地から吟味した〇〇温暖化論への仮借ない批判。

環境主義の倫理と技術 長崎 浩 84

環境主義を支える思想、アルド・レオポルトの土地倫理が直面せざるをえない課題やジレンマを乗り越えるための知見！ 適正技術について、BMW技術を具体例に説き明かす。

ケアの社会学 第二〇章 集団ケアから個別ケアへ——ユニットケアの場合 上野千鶴子 103

ケアの個室化・ユニット化にはプライバシーの確保などの利点のほか、職員の負担増加などのデメリットも生じうる。「暮らしの場」としての施設が目指すべき形とは。

ポスト・リオリエント 第一回 『リオリエント』から考え直す 山下 範久 122

諸「世界」に対し帝国はいかにしてその普遍性を提示するのか？ A・G・フランクの名著を出発点に、歴史認識の立脚点から再考察して世界システム論の脱構築を企図する注目の新連載。

『世界共和国へ』に関するノート(7) 柄谷 行人 136

多数の社会構成体が共存する空間「世界システム」もまた、他の世界システムとの関係の下に存立する。政治的に統合された世界「帝国」と統合されていない世界「経済」の相関的な関係とは。

デザイン覚書11 「歩くへわたし」

鈴木一誌 147

『P』11号に書いた／語った人たち

148

編集後記・次号予告

149

写真・図版提供：協力
ワナー・ホーム・ビデオ、
BM技術協会